

四季の移ろいを感じ楽しむ

七十二候

1年を24等分した二十四節気(立春、春分など)を、それぞれ3つの「候」に区切った節目を七十二候といいますが、移ろう季節を愛でる日本人の豊かな感性を象徴しています。

霜降

初候

霜始降

しもはじめてふる

10月23日～10月27日頃

はかない霜の花と燃える野山
多彩な美しさに魅了され

大地を濡らす露が霜となって降り注ぐ頃、太陽に照らされる時間が日に日に短くなり、どこかもの寂しさが漂う季節。よく晴れた風のない夜に霜は降りやすいとされ、このような霜を「霜風(しもなぎ)」と呼びます。雪の結晶を六つの花というのに対し、霜の結晶は「三つの花」。うるうるると輝く美しい霜の花ですが、朝日が昇れば消えてしまうはかなさがまた心に染み入ります。霜降る静寂の夜とは裏腹に、野山の楓、銀杏、蕨の葉が鮮やかに色つき、辺りは燃えるように赤く染まります。この時期、越冬のために真鶴が飛来します。大きな灰色の翼を広げ力強く羽ばたく姿も風物詩です。



果物 柿



きざし 朝霜



植物 紫式部



鳥 真鶴

開運ポイント

正岡子規が法隆寺で柿の句を詠んだことから、10月26日は「柿の日」。栄養満点の柿は、実の色から金運アップの果物としても親しまれています。

神宮館

SELECT



～暮らしを楽しむ～
日本の伝統行事

定価：1,650円

伝統行事を取り入れて心を豊かに

今年の8月に『開運七十二候』に続く、暮らしを楽しむシリーズ第2弾として、日本の伝統行事の書籍を刊行します。昔から日本では自然の恵みや日々の生活に感謝する伝統行事が行われてきました。その節目には、子供の成長や長寿のお祝いをし、伝統行事には田植えや収穫などの農作業の目安にもなりました。伝統行事は、人々の生活を助け、楽しみのひとつとして、根づいています。



本書では鮮やかなイラストとともに日本の伝統行事の由来や作法を解説しております。お正月、ひなまつり、端午の節句などのよく知られている行事から、祇園祭や朝顔市、天神祭などの祭事をわかりやすく、月ごとに掲載しています。現代に合った手軽で簡単に取り入れられる伝統行事のやり方も提案していますので、日々の暮らしのアクセントとしてご活用ください。



ももとせクイズ

三種の神器の一つ「草薙剣」が奉祀されているのは、名古屋市内にある何という神宮？

今回のプレゼント

スクラッチアート浮世絵の世界
3名様

専用ペンでぞってけずるだけで、初心者でも簡単に作品を描くことができます。



※前回の答え
「命(みこと)」

応募方法

は郵便「お名前」「郵便番号」「住所」「電話番号」「生年月日」「クイズの答え」「ご意見・ご感想」を必ず明記ください。

〒110-0015 東京都台東区東上野1-1-4
株式会社神宮館 「ももとせクイズ」係

インターネット <https://jingukan.co.jp/momotose-present/>
右のQRコードを読み込み、応募フォームにアクセスしてください。



応募締切 2021年9月末日

※当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。

ももとせ便り

No.52

発行/神宮館

東京都台東区東上野1-1-4

TEL 03-3831-1638

<https://jingukan.co.jp>

発行人/木村通子

MOMOTOSE
DAYORI

ももとせ便り

秋号

令和3年辛丑

JINGUKAN

No.52

菊文様

日本を代表する花として皇室のご紋章、国会議員のバッジ、五十円硬貨など、さまざまなものに用いられている菊文様。九月九日に行われ、邪気を払って長寿を願う行事「重陽(ちようよう)の節句」は「菊の節句」ともいわれ、菊の花が飾られ、宴の酒には菊の花びらが浮かべられました。古くから馴染み深く生命力が強い菊は、お日さまにも例えられ、長寿の花として尊重されてきました。

特集

神話伝承シリーズ④

難局打開のヒーローを知る

静岡・焼津

難局打開のヒーローを知る

静岡焼津



静岡県のほぼ中央に位置し、葵区、駿河区、清水区の3区で構成される静岡市。2005年には全国14番目の政令指定都市に制定されているが、政令指定都市の中では人口が最も少ない。世界文化遺産の三保松原や、徳川家康が晩年過ごした駿府城など、多くの観光資源を有している。静岡市に隣接する焼津市は豊かな水産物に恵まれ、水産業を中心に発展している。



静岡・焼津 おすすめスポット

静岡浅間通り商店街の和菓子処で販売している焼きたてのどら焼き。ふんわりした食感と餡の旨味が口の中に広がる。一日数量限定で、決まった焼き上がり時間にしか買えない名物。

河内屋のどら焼き



やいづ くさなぎのつぎ
焼津と草薙剣とは

第12代景行天皇の第二皇子として生まれた日本武尊は、勇猛果敢で利発な人物であったことから、景行天皇にその力を恐れられ、遠ざけるために各地を平定する旅に出される。ある時、蝦夷(えぞ)の反乱を平定するため吾妻(あずま)の国に向かうのだが、途上で敵に原野へ火を点けられ窮地に陥る。日本武尊は「遠かたや、しげきかもと、をやい鎌の」と唱え、鎌で打ち払うように剣を振り草を薙ぎ払い、火の向きを敵の方へ変えて窮地を脱する。この伝説からその地は「ヤキツ」と呼ばれるようになり、現在の「焼津(やいづ)」という地名の由来となっている。その時に使ったとされる天叢雲剣(あめのむらくものつぎ)は、草薙剣と名称が変更され、今でも三種の神器の一つとして熱田神宮(名古屋市)に奉祀されている。



久能山東照宮

徳川家康公を御祭神とし、全国東照宮の創祀・根本大社として崇敬を受けている。久能海岸から1159段の石段を登るか、日本平からロープウエーで下るかのどちらかで訪れることができる。

三保松原

三保半島にある景勝地で、昔から富士山をモチーフとした作品に多く描かれている。取材当日は黄砂の影響により、富士山を見ることができなかった。羽衣伝説の地としても有名。



▲麓山神社

続いて訪れたのが静岡浅間(せんげん)神社。JR静岡駅から路線バスで訪れるのが便利だ。神部(かんべ)神社、浅間(あさま)神社、大歳御祖(おおとしみおや)神社の三社を総称して「おせんげんさま」と親しまれている。敷地内には麓山(はやま)神社、少彦名(すくなひこな)神社、八千戈(やちほこ)神社、玉鉾(たまぼこ)神社があり、この七社全てをお詣りすると万願叶うといわれている。ほどよい広さの敷地内にバランスよく配置されているのだが、麓山神社だけが高台にあり上がるのに苦労する。日本武尊を配祀とする神社なので、ぜひお詣りしてほしい。

東海の日光 「静岡浅間神社」



DATA

●焼津神社(やいづじんじゃ)
焼津市焼津2丁目7-2
社務所 8:30~17:00

境内には日本武尊と神武天皇の石像があり、日本武尊の石像は直立不動、神武天皇の石像は八咫鳥の伝説を表現している。焼津神社の社務所は昨年建て替えられたばかりで、日本刀など所蔵品の展示スペースも設けられている。



▲日本武尊の石像(焼津神社)

伝説の地「焼津神社」
日本武尊(やまとたけるのみこと)を御祭神とする焼津神社はJR焼津駅から徒歩約13分。創建は409年といわれ、現在の本殿は1603年に徳川家康が造営している。室町時代に今川氏が駿河の国を治めていたころ、この地域は「入江荘(いりえのしょう)」と呼ばれていたことから、地元では「入江大明神」と崇められてきたそうだが、武家や漁業関係者に親しまれている。



神剣が祀られていた 「草薙神社」



DATA

●静岡浅間神社(しずおかせんげんじんじゃ)
静岡市葵区宮ヶ崎町102-1
社務所 9:00~17:00

帰りもバスで静岡駅まで戻ればよいのだが、参道にある浅間通り商店街を歩いて帰るのもお勧め。今回は閉まつているお店が多かったが、昔ながらのたたずまいに風情を感じた。

最後に訪れたのが、JR草薙駅から徒歩約20分の草薙神社。草薙剣が最初に奉納された神社で、周辺には20以上の日本武尊伝説が伝えられている。草薙神社の信仰が広まるとともに創作されたと推察されるそうだが、最初に目についたのが、日本武尊の石像。焼津神社で見た石

像とほぼ同じ構図で、焼津神社の石像はこの石像を模しているのではないかと。草薙神社では、今回訪れた中で最も日本武尊にまつわるものが多く見られ、絵馬にも登場する。日本武尊の逸話は全国各地に残っているが、静岡には今回訪れた場所以外にも多い。今の時代、難局を打開し続けた日本武尊にあやかりたいと思える旅だった。



▲日本武尊の石像(草薙神社)



DATA

●草薙神社(くさなぎじんじゃ)
静岡市清水区草薙349
社務所 9:00~17:00

今回の旅で 購入したお土産

富士山サイダー
富士山の澄んだ空気をイメージしたご当地サイダー。甘味を抑えたスッキリした味わい。



ななや PREMIUM MATCHA 7
抹茶の濃さが異なる7種類と濃いほうじ茶の合計8種類のチョコレートが楽しめる。